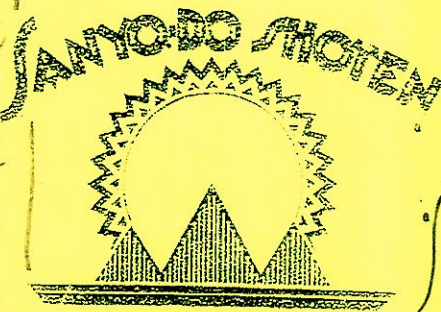


今月の言葉

山陽堂だより 39

2012年10月神無月

ひとりといわれる自由
というのは、これはゆるがせ
にできない大切な
ものだね。子どもにとって
同じことだ。本と読ん
でいるあいたは、ふたへ
属する社会や家族から
離れ、本の世界に迎え
られる。だから本と読むのは、
孤独であって孤独ではないんだ。
子どもがそのことを発見できたら、
生き抜くためのひとつのやりこり
になるだろう。読書というのは、いや図書館
というのは、教会にも似たところがあるんじゃないか。



山陽堂書店

衣替え10月1日
(ころもかえ)

季節の変化に気づいて
衣服を着替える日。
明治時代、旧暦
から新暦に変わり、
和服から洋服を着る
ようになったことから
政府が6月1日を夏の衣替え日、
10月1日を冬の衣替えの日と
決めました。「和のころも
日本を年中行事ナリ」

ひとりを出かけて行って、そのまま受け入れられる場所と考へれば。
— 松家仁之代著 新潮社『火山のふもとで』より —
1995年

第25回山陽堂セミナー
松家仁之 X 岡戸絹枝

『雑談の話、本の話』
日時 10月12日(金) 19時~
参加費 1500円
定員 25名

お申し込みは
山陽堂ホームページ
TEL 03-3401-1358

松家仁之さんは、新潮社で「考証人」
の創刊編集長及び「芸文新潮流」の
編集長を務められ、2010年夏号「考証人」
「村上春樹対ロン・サンタビュー」を最後に
退職。9/28テレビ長篇「火山のふもとで」出版
・岡戸絹枝さんは、マカニシのワスで週刊
平凡「Hanako」「olive」の編集に携わり、
1998年に「olive」の編集長、2003年
「kunei」の創刊編集長を経て、2010年
退職。現在は雑談「Talking about」を編集
出版。

高垣康平 写真 - 2F-3Fにて
『無量童子を描く展』

10月1日(月) ~ 6日(土)
月~金 11:00~19:00 土 11:00~17:00

「無量童子」画を描き始めて28年目となる高垣
康平は、多くの方々との縁をいって、
その喜びと筆に込め、また新たに無量童子の
姿を描くことを続けてきました。「生かす事
の嬉しさから、私の筆を走らせる原動力となっ
ているのです。初めて無量童子画を描いたのは
お父さん「この仏さまは菩薩か？
お地蔵さまか？」とお聞きになる事か
ありですか。私はいろいろと聞いて、
それは、その方自身に内在する仏さまを見
つける作業といえることにほかありません。そして、
その時見た仏様か、この仏様でも、間違
なく、その方にとり、その仏様は必ず、その時、見
つけるか、お父さん「お父さん、仏さまに帰依するとは、
大変充実した気持ちになります。(後略)
— 高垣康平 1995年10月1日 —

(お越しくたさしたみはさまありがたうございました😊)

新湖社「安西水丸+和田誠『番外・AD-LIB』」終了しました。

村上春樹さんの『雑文集』¹⁴⁷⁰²の表紙や装画に、安西さんや和田さんの絵が登場します。「前書きとこまでも雑的な心持ち」の中で、村上春樹さんは「和田誠さんと安西水丸さんが共同個展のようなことをやっておられて、その絵会を見ているうちに、お二人の絵をくっ合わせてもらってうまく装幀かできたらいいなと思いました。もともと雑的な構成の本なので、それをひとつにまとめるウイジェリアな柱みたいなものが一本あるといいなと考えたわけです。で、それならせいかくたから、お二人に僕についての対談をさせていただいて、それを後書きにすればいいな」という話になりました。そんなわけで、和田さんと水丸さんには何かとお世話になりました。感謝します。」と書いています。

📖 キャラリーノートのことばかり🖋️

- 人生のターニングポイントでおふたりのイラストに出会い、心から明るく・かろく・なりました。
このほんわかした気持ちと胸に、あたらしい世界へ飛びこもうと思います。水丸さんも誠さんも、お身体に気をつけて、こみからも温かな空間をお創りください。いつもありがたうございました。
- 二人の会話か聞こえてきそう。キャラリーは静かな空間なのに、とこもにきやかな空間ですわ。
「くす。」とか「にや。」か目に写かひます。
- コレはコラージュ的発想を感じました。
たのしかったです!!
- はろと見てくると笑ってよく見ると深い。
- 絵もいい。窓からながめる景色もいい。
- 気がいたらニッコリしてました♡

